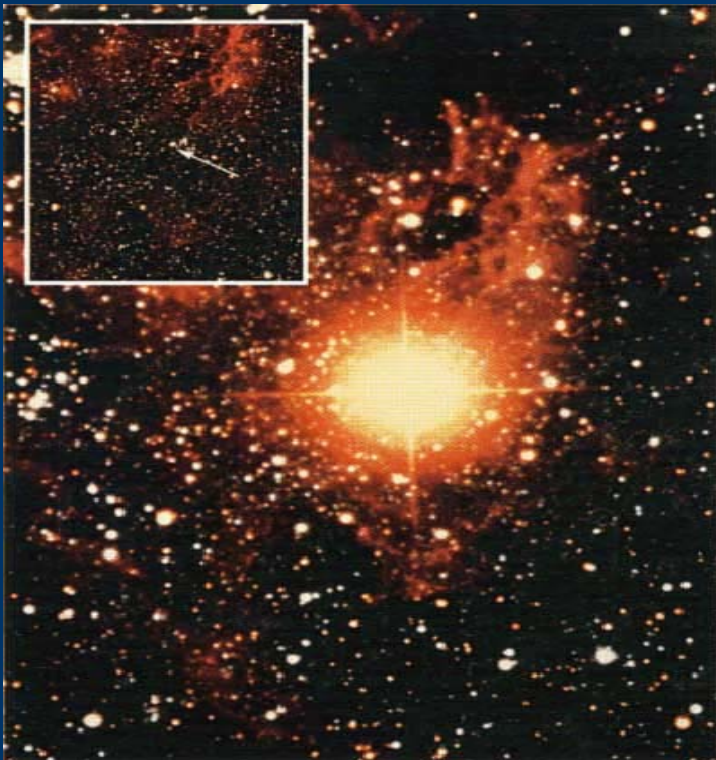


自然科学研究科博士前期課程集中講義 「ニュートリノと地下実験」

講師：東京大学宇宙線研究所教授 鈴木洋一郎氏
(神岡宇宙素粒子観測施設長、前東大宇宙線研所長、2001年仁科記念賞)
日時：5月26日(火)～28日(木)
場所：コラボレーション棟 4F 共同研究室



概要

パウリの「ニュートリノ仮説」以来70年以上が経過し、ニュートリノの研究は大きく変貌し、素粒子研究の一つの中心となった。ニュートリノ振動の発見後の10年間は特に激動の時代である。宇宙からのニュートリノの研究が根源にせまる新たな分野を開拓したと言ってもよいであろう。ニュートリノの研究を実験サイドから振り返るとともに、今後の方向性を議論する。

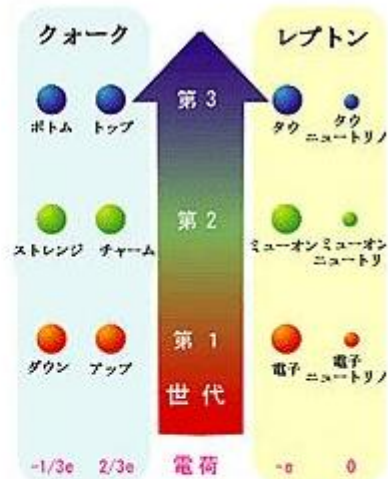
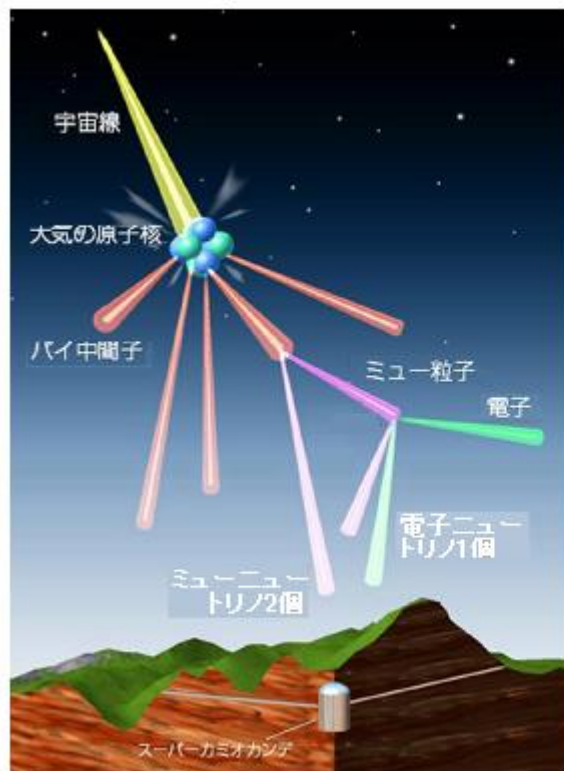
物理談話会

「ニュートリノ物理の展望」

講師：東京大学宇宙線研究所教授 鈴木洋一郎氏

日時：5月26日(火) 16:00～17:00

場所：コラボレーション棟 3F コラボレーション室



↑現在わかっている素粒子の種類

←ニュートリノ振動とそれを発見したスーパーカミオカンデ

(出典：スーパーカミオカンデ)

概要

ニュートリノ振動の発見によりニュートリノの研究は、素粒子の標準理論を超えた世界への突破口となった。また、ニュートリノによる宇宙の観測という新たな手段を得ることもできた。ニュートリノの研究は、将来、宇宙の物質の起源の解明に迫ってゆく。